
しゅごキャラ！3人娘のトライアングルハート！！

ユーリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

しゅごキャラ！3人娘のトライアングルハート！！

【Nコード】

N8485J

【作者名】

ユーリ

【あらすじ】

三条ゆかりが旅行に行っている間、代理マネージャーを日奈森亜夢に頼む事にした星名歌唄。

亜夢と一緒に1日を満喫する中、父のように立派な怪盗になる夢を持つ少女・阿久野正子がルルに心のタマゴを？タマに変えられ亜夢と歌唄を襲う！！

大ピンチの亜夢と歌唄に、新たな力が目覚める・・・

(前書き)

キャラクター紹介

日奈森亜夢…聖夜学園小の6年生で、クール&スパイシーというイメージを持たれている女の子。ガーディアンに所属しており、ジョーカーを務める。しゅごキャラはラン・ミキ・スウ・ダイヤの4人。真城りま…聖夜学園小の6年生で、クールとお笑い好きという2面性を持つ女の子。亜夢のクラスメイトの1人。ガーディアンに所属しており、Qチェアを務める。しゅごキャラはクスクス。

星名歌唄…月詠幾斗の妹で、アイドルをやっている女の子。元イースターの1人で、イースターからの第2の刺客。マネージャーに三条ゆかりがいる。今はイースターから抜け、ゆかりと共に独自の活動を続けている。亜夢の事は少しずつ認めてはいるもののなかなか素直になれない。幾斗が大好きという極度のブラコン。しゅごキャラはエルとイルの2人。

三条ゆかり…三条海里の姉で、歌唄のマネージャーをしている女性。海里とちがいグータラ気味。元イースターの1人で、歌唄と共に第2の刺客だった。今はイースターを抜け、歌唄と共に独自の活動を続けている。アニメ版では二階堂悠と良い感じ♪

ルル・ド・モルセール…アニメ版オリジナルキャラクターで、フランスから来た女の子。名古屋生まれらしく、時々方言が出る。イースターからの第3の刺客（原作では第3の刺客は幾斗）。不思議なジュエリーを持ち、抜き出した心のタマゴを？タマに変える能力を持つ。しゅごキャラはナナ。

ラン…亜夢のしゅごキャラの1人。最初に生まれた子。特技は応援。亜夢とのキャラなりはアミューレットハート。

クスクス…りまのしゅごキャラ。お笑いが大好きなピエロ風の子。りまとのキャラなりはクラウンドロップ。

エル…歌唄のしゅごキャラの1人。天使そのものという感じの子。歌唄の元から家出し亜夢の元にいた事があり、ハンプティ・ロックの力で亜夢とキャラなりした事もあった。そのためか亜夢のしゅごキャラ達とも仲良し。歌唄とのキャラなりはセラフィックチャームで、亜夢とのキャラなりはアミュレットエンジェル。

イル…歌唄のしゅごキャラの1人。小悪魔そのものといった感じの子。エルをよくイジメるが、本当は仲良し。原作の歌唄編終盤において、ハンプティ・ロックの力で亜夢と一時的にキャラなりした事もあった。歌唄とのキャラなりはルナティックチャームで、亜夢とのキャラなりはアミュレットデビル。

ナナ…ルルのしゅごキャラ。フランス人形のような子。ルルと同じく名古屋弁を使う。ルルとのキャラなりは不明。

？（ナゾ）タマ…ルルのジュエリーの力で抜き出されたタマゴが姿を変えたタマゴ。濃い紫色で、？マークがついている。持ち主の夢を？キャラチェンジや？キャラなりによって暴走させてしまう。

阿久野正子…今回ルルによってココロの卵を？タマに変えられる少女。怪盗をしている父を持ち、自分も将来怪盗になろうとしているが、迷っている。？キャラチェンジした事によって亜夢や歌唄を襲う。キャラチェンジの段階で歌唄のルナティックチャームを圧倒するほど強い。？タマによるキャラなりはギルティドリーム。

ある1件の事務所で、星名歌唄と三条ゆかりがコーヒーを飲みながら話をしていた。

ホシナ ウタウ
星名歌唄

「えっ、旅行に行くの？」

三条ゆかり

「ええ、悠に誘われちゃってね。」

歌唄

「二階堂さん？ 良いわね、ラブラブで♪」

ゆかり

「そ、そんなんじゃないわよ!!」

顔を赤くしながら言うゆかり。

歌唄

「で？ その旅行っていつからなの？」

ゆかり

「今日の夕方からよ。」

歌唄

「夕方から行くの？」

ゆかり

「ええ。だから明日は知り合いの誰かに代理のマネージャーを頼んでね。」

歌唄

「あ、はい・・・」

夕方になって二階堂悠がやって来て、ゆかりは彼と共に出かけて行った。

歌唄

「さて、どうしたものかしら・・・代理のマネージャーっていても誰に頼めば・・・あ、そうだ！あの子に頼みましょう！」

歌唄は手をポンと叩いた。

歌唄

「そうと決まれば、明日朝一番に行きましょう！」

歌唄は心なしかニコニコしていた。

そして翌日、日奈森家

日奈森亜夢は、朝っぱらからベッドで寝ていた。

ヒナモリ アム
日奈森亜夢

「（今日と明日はお母さんもお父さんもあみも旅行でいないから、アタシの好き放題にできるんだよね）。こうやって寝放題だし・・・」

亜夢はスースー寝ている。

亜夢が寝ていると、日奈森家の呼び鈴が鳴った。

ピンポーン、ピンポーン！

亜夢

「ふああ・・・」

亜夢はアクビをしながら目を覚ました。

亜夢

「うゝん、誰えゝ？」

眠い目をこすりながら、玄関まで歩いて行く亜夢。

そして、扉を開ける。

亜夢

「って・・・歌唄！？」

扉を開けた亜夢の前には、星名歌唄が立っていた。

歌唄

「おはよう、亜夢。」

亜夢

「お、おはよう・・・って、何しに来たの歌唄・・・？」

亜夢が疑問に思うのもムリはない。

人気アイドルの歌唄が、何のアポもなしに一般人の亜夢の家に来たのだから。

歌唄

「えっと・・・それは・・・」

亜夢の部屋

亜夢

「え？三条さんが旅行に？」

歌唄

「そうなの。二階堂さんと一緒にね。」

亜夢

「二階堂先生と？」

エル

「婚前旅行なんです。ラブラブなフラグが立ちまくりなんです。」

「

イル

「2人はずっと否定してたけどな。顔が赤くなってたからバレバレだぜ。」

亜夢

「そうなんだ。で、アタシに何か用なの？」

歌唄

「ええ、折り入ってあなたに頼みがあるの・・・またアタシの1日マネージャーをやってくれない？」

亜夢

「え？アタシが歌唄の1日マネージャーに？」

歌唄

「そうよ、亜夢。」

亜夢

「な、何でアタシに!？」

歌唄

「あなたこないだカッコ良いところ見せてたじゃない。そこに少し惹かれたってのもあるかな。」

亜夢

「そうなんだ・・・」

歌唄

「やるの?やらないの?」

亜夢

「うん、良いよ。どうせ今日ヒマだったから。」

歌唄

「決まりね。エル、イル！バッグから例の服を出して亜夢に着せちゃって♪」

亜夢

「え？え？」

イル

「覚悟しな、亜夢！」

エル

「ゴメンナサイです、亜夢ちゃん。」

亜夢

「ちょ、ちょっと待っ・・・キャーッ！！」

イルとエルに飛びかかれ、亜夢は悲鳴をあげた。

数分後、亜夢はイルとエルによってメイド服を着せられた。

亜夢

「うう・・・どうしてアタシがこんな目に・・・」

亜夢は俯いている。

歌唄

「似合っているわよ、亜夢♪」

歌唄は微笑んでいる。

亜夢

「まあ、歌唄が喜んでるなら良いけどさ・・・」

亜夢は苦笑いした。

歌唄

「じゃあ、アタシも着替えるわ。」

亜夢

「じゃあ、お母さんの部屋使って。」

歌唄

「悪いわね、亜夢。」

歌唄はバッグを掴むと、イルとエルを連れて亜夢の部屋を出た。

数分後、着替えた歌唄が戻って来た。

歌唄

「お待たせ。」

亜夢

「早かったね、歌唄・・・って、え!？」

部屋に戻って来た歌唄を見た亜夢は、絶句した。

なぜなら歌唄は、執事服を着ていたからだ。

亜夢

「う、歌唄・・・何でそんな格好してるの・・・？」

歌唄

「えっと・・・亜夢がメイド服着てるから？」

亜夢

「それ答えになってないんだけど・・・」

歌唄

「あ、あら・・・？」

イル

「歌唄・・・」

エル

「歌唄ちゃん・・・」

歌唄

「よ、要するに変装よ変装！そのままだと目立つでしょ？」

亜夢

「そ、そだね・・・」

歌唄

「さっ、行くわよ亜夢。」

亜夢

「う、うん。」

亜夢と歌唄は、外に出た。

亜夢と歌唄は、ラーメン屋に来ていた。

亜夢

「う、ラーメン屋・・・？」

歌唄

「そうよ。アタシがよく来る店なの。」

亜夢

「素の姿で？」

歌唄

「もちろん、1人の時は簡単な変装するわよ。今は執事服着てるから良いけどね。」

亜夢

「そだね。」

歌唄

「店長さん、塩・麺バリカタ・背油多め・トッピング味タマ2丁で

お願い！」

「あいよ〜。」

数分後、ラーメンが2丁運ばれて来た。

「へい、お待ち！」

トン！

歌唄

「食べるわよ、亜夢。」

亜夢

「うん。」

亜夢と歌唄は、ラーメンを食べ始めた。

亜夢

「あ、おいしい。」

歌唄

「でしょ？ここのラーメンは最高なのよ。」

亜夢

「うん、箸が進む〜♪」

30分ほどして、亜夢と歌唄はラーメンを食べ終わる。

歌唄・亜夢

「ごちそうさまでした。」

亜夢と歌唄は勘定を済ませ、店を出た。

亜夢

「おいしかったわ。」

歌唄

「良かった、亜夢に喜んでもらえて。」

亜夢

「それで、歌唄。この後仕事の予定は？」

歌唄

「その事なんだけどね、亜夢・・・」

亜夢

「うん。」

歌唄

「驚かないで聞いてね。実は今日・・・」

亜夢

「うんうん。」

歌唄

「本当はね・・・今日お仕事ないの・・・」

亜夢

「ええー！！今日仕事ないのー！！？」

歌唄

「ゴメンナサイ、ウソついちゃって・・・」

亜夢

「別にそれは良いんだけど・・・じゃあどうしてアタシを・・・」

歌唄

「アタシね、中学校であまり同性の友達っていないの。アイドルだからって事もあると思うんだけど・・・亜夢には何度も助けてもらってるのに、なかなか素直になれなくて・・・だから、せめてあたと友達になりたいと思ったの・・・」

亜夢

「ヤダなあ、歌唄・・・×タマを大量浄化したその日から、アタシ達は親友じゃん？」

歌唄

「ありがとう、亜夢・・・」

亜夢

「じゃあ、デパートに行きましょ！」

歌唄

「うん！」

亜夢と歌唄は、手をつないでデパートに向かう。

その2人を、謎の影が見つめていた・・・

亜夢と歌唄は、デパートでUFOキャッチャーをしていた。

歌唄

「ホラ、取れたわよ亜夢！」

歌唄はウサギのヌイグルミを取り、亜夢に渡す。

亜夢

「ありがとう、歌唄！じゃあ、アタシは・・・」

対する亜夢は、黒いネコのヌイグルミを取って歌唄に渡した。

亜夢

「はい！」

歌唄

「ありがとう。」

亜夢

「こうしてるとアタシ達、デートしてるみたいだね！」

歌唄

「ふえ！？そ、そうね・・・」

亜夢と歌唄はお互い赤面している。

亜夢

「次、何する？」

歌唄

「そうねえ・・・あ！亜夢、これやらない？」

歌唄の指差した方向には、某有名ホラーゲームの筐体キヨウタイがあった。

亜夢

「これって・・・バイオハザード？」

歌唄

「そうよ。よくストレス発散にやってるの。」

亜夢

「へえ・・・」

歌唄

「銃を軽く前に振れば弾の装填。手前の左ボタンは手榴弾。そして右ボタンがナイフよ。」

亜夢

「説明ありがとう・・・」

歌唄

「さあ、さっそくやるわよ亜夢！」

歌唄は筐体にコインを入れる。

チャリンチャリン！

亜夢

「うん！でもアタシこういうのやった事ないから……すぐ死んじやうかもしれないよ？」

歌唄

「あなたは死なない……」

亜夢

「え？」

歌唄

「アタシが守るから。」

亜夢

「……」

キュン！

亜夢は赤面した。

歌唄

「行くわよ！！」

亜夢

「は、はい！！」

歌唄と亜夢はゲームを始める。

そして1時間後・・・

『シャアアア!!』

歌唄

「これで!!」

ジャキッ!

歌唄

「ラストオ!!」

ドン、ドン!!

『世界の秩序は保たれた・・・』

亜夢と歌唄は見事ゲームをクリアした。

亜夢

「フウ・・・何とかクリアしたみたいね・・・」

歌唄

「でも亜夢上手だったわね。飲み込みも早かったし・・・」

亜夢

「イヤ、そんな事ないよお。でもこんな怖い女の子がやるもんじやないわね。」

歌唄

「女の子でもストレス発散に、コイン2枚でカワイくない二次元の怪物を倒すくらいは良いでしょ？」

ガコン！

歌唄

「それに、悪い怪物から地球の秩序も守れたわよ。」

亜夢

「アハハ。でも架空のでしょ？」

歌唄

「ええ。怪物だけに・・・リセット1つで蘇るわ。」

亜夢

「え？」

亜夢・歌唄

「・・・」

歌唄

「ゴ、ゴメン亜夢・・・」

亜夢

「イヤ、アタシは別に・・・もう帰ろうか？着替えてから。」

歌唄

「そうね・・・」

亜夢と歌唄は持って来ていた元の服に着替え、デパートを出た。

歌唄

「じゃあね、亜夢。今日は1日ありがとう。」

亜夢

「どういたしまして。それじゃまた今度ね。」

歌唄

「ええ、じゃあ。」

歌唄は足早に帰って行く。

亜夢

「さてと、アタシも帰るか・・・」

亜夢も自分の家に向かって歩き出す。

そんな彼女を、1人の少女が見つめていた。

アクト セイコ
阿久野正子

「あの娘が星名歌唄と親しい日奈森亜夢・・・あの娘を利用すれば、大金が手に入るかも・・・アタシはお父様のように立派な怪盗になるんだ！でも、アタシにそんな力があるかどうか・・・」

そんな正子の前に、ルル・ド・モルセールが現れた。

ルル・ド・モルセール

「あなた、迷っているのね。」

正子

「え？」

ルル

「あなたのその夢、このジュエリーで叶えてあげる・・・」

ルルはジュエリーを取り出す。

ルル

「やりたい事は、やったらええがね!!」

『? キャラチェーンジ!!』

亜夢は夜道を歩いていた。

亜夢

「今日の歌唄、楽しそうな顔してたなあ。また一緒に遊ぼう。」

亜夢は微笑んでいる。

すると、亜夢の前に阿久野正子が現れた。

ザッ!

正子

「見つけたわよ、日奈森亜夢。」

亜夢

「あなたは誰？」

正子

「アタシは怪盗を父に持つ阿久野正子。あなたに用があるの。一緒に来てもらうわ。」

正子の右側に、？タマが見える。

亜夢

「（あれは？タマ！）アタシの心、アンロック・・・あ！！」

亜夢はキャラなりしようとするが、しゅごキャラがない事に気づいた。

亜夢

「しまった！今日はラン達連れて来てなかったんだった！！」

亜夢はあわてる。

亜夢

「ど、どうしよ・・・」

正子

「覚悟しなさい、日奈森亜夢・・・」

正子は亜夢に近づく。

亜夢

「あ・・・キャアアアッ！！」

亜夢は悲鳴をあげた。

1時間後

歌唄

「メイド服の亜夢、カワイイわね・・・」

歌唄は事務所で、亜夢と一緒に撮ったプリクラを見つめていた。

歌唄

「今度また亜夢を誘おう。」

歌唄は微笑んでいる。

すると、事務所の窓を叩く音が聞こえた。

トントン！

歌唄

「あら、ラン達？」

歌唄は窓を開け、ラン達の中に入れる。

歌唄

「どうしたの？」

ラン

「歌唄ちゃん、亜夢ちゃん知らない？」

歌唄

「今日は1日一緒だったけど、1時間程前に別れたわよ？」

スウ

「亜夢ちゃんがまだ帰って来てないんですぅー!!！」

歌唄

「な、何ですって!?!？」

歌唄は驚く。

すると、歌唄の携帯が鳴った。

ピリリ、ピリリ!

歌唄

「もしもし、亜夢?今ドコにいるの?ラン達が心配してるわよ!」

正子

「やはり親友。星名歌唄の電話番号を知ってたか。」

歌唄

「!?!?あなた、誰よ?」

正子

「アタシは怪盗を父に持つ阿久野正子！あなたの親友日奈森亜夢は、アタシが預かったわ。」

歌唄

「な、何ですって！？」

亜夢

「歌唄助けてえー！！」

歌唄

「あ、亜夢！！」

正子

「ウフフ・・・この娘を助けたければ、聖夜学園近くの廃倉庫に1人で来なさい。」

歌唄

「わかったわ。」

亜夢

「ダメ歌唄！これはあなたを誘い出すワナよ！来ちゃダメエ！！」

正子

「うるさい！！」

正子は亜夢の頬を叩いた。

バチン！

亜夢

「キャア!!」

歌唄

「あ、亜夢!？」

正子

「とにかく急ぎなさいよ?」

正子は電話を切った。

歌唄

「あ、亜夢!!」

亜夢

「うっ・・・ううっ・・・」

正子

「この娘、殺されたいの!？」

歌唄

「どうしよう、亜夢が・・・」

イル

「歌唄・・・」

エル

「歌唄ちゃん・・・」

歌唄

「今までのアタシだったら、きっと見捨ててた・・・でも、今はちがう！亜夢にはたくさん助けられたわ。今度はアタシが亜夢を助ける！エル！エースチエアかクイーンズチエアの子を呼んで来て！」

エル

「了解なんです！」

エルは飛んで行く。

歌唄

「イル、行くわよ！」

イル

「ああ！」

歌唄

「アタシの心、アンロック・・・キャラなり！ルナティックチャーム！！」

歌唄はイルとキャラなりし、ルナティックチャームに変身する。

歌唄

「亜夢、待ってて！！」

歌唄は事務所から飛び出した。

ドンッ！！

正子

「全く、うるさい子ね・・・」

亜夢

「んゝ、んゝ・・・」

正子

「ウフフ・・・」

歌唄

「イル、ここなのね？」

イル『ああ、？タマの気配がするぜ！』

歌唄

「（亜夢、今行くわ！！）リリントライデント！！」

歌唄は悪魔の矛で窓を割り、突っ込んだ。

ドンッ！！

バリン！！

歌唄は地面に着地する。

トッ！

歌唄

「亜夢！！」

歌唄の目線の先には亜夢がいた。

亜夢は手足と体をロープでグルグル巻きに縛られ、口をガムテープで塞がれている。

亜夢

「ん、んんん！！（う、歌唄！！）」

歌唄

「亜夢、大丈夫？」

歌唄は亜夢に駆け寄り、口のガムテープをはがした。

ピリリ！

亜夢

「イ、イタタ・・・うん、大丈夫よ！」

歌唄

「無事で良かった！今、ロープを解くからね。」

歌唄は亜夢の背後に回る。

亜夢を縛っているロープを解こうとしたその時、ブーメランが飛んで来た。

ギューン！！

歌唄

「ハッ！」

歌唄は亜夢を抱え、ブーメランを避ける。

歌唄

「何なの？」

正子

「来たわね、星名歌唄！！」

正子が歌唄の前に現れた。

歌唄

「アンタね！アタシの友達をさらったのは！！」

亜夢

「歌唄気をつけて！！その子、見た目よりかなり強いよ！」

歌唄

「心配しないで。」

歌唄は亜夢を壁にもたれさせると、正子に突っ込んだ。

歌唄

「喰らいなさい！ナイトメアローレライ！！」

歌唄は黒いチョウを無数に放つ。

ブアッ！

歌唄

「さつきは不意をつかれたけど、無数に放たれるチョウを防ぎきる術があなたにあるかしら？」

正子はニヤリとすると、指をパチンと鳴らす。

パチン！

すると、正子の横に穴が空き、空間が広がった。

ズアッ！

そして、チョウ達を吸い込み始める。

ゴオオオオオ！！

歌唄

「え！？」

やがて、影の空間はチョウ達を吸い込み終わった。

スウ・・・

歌唄

「そ、そんな！アタシのナイトメアローレイが謎の空間に吸い込まれた！？」

正子

「アタシはね、異空間を作り出す事ができるのよ。しかも、異空間に吸い込んだものはアタシの意のまま・・・こんな風にね！！」

正子が指をパチンと鳴らすと、異空間に吸い込まれた蝶が歌唄を襲った。

ズズズ・・・

ゴォツ！

ガガガガガ！！

歌唄

「キャアアアア！！」

歌唄は片ヒザをつく。

歌唄

「う・・・こ、この娘・・・強い・・・」

衝撃でキャラなりが解け、歌唄は床に倒れ込んだ。

ドサツ！

亜夢

「う、歌唄〜!!」

正子

「所詮はそんなもんよ。」

正子はそう言うのと、歌唄に近づいた。

その後歌唄は亜夢と同じように手足をロープで縛られ、亜夢の横に放り出された。

ドサツ!

歌唄

「あうっ!!」

亜夢

「歌唄、大丈夫?」

歌唄

「え、ええ・・・亜夢、ゴメン・・・」

亜夢

「歌唄のせいじゃないよ。最初に捕まったアタシも悪いんだから・・・」

歌唄

「それより・・・何のためにアタシ達を捕まえたの?」

正子

「決まってるでしょ？ 星名歌唄・・・あなたのマネージャーからお金をいただくためよ。」

歌唄

「だったら、最初からアタシだけを狙えば良いじゃない！ どうして亜夢まで巻き込んだの！！」

正子

「あなたは警戒心が強いからね。先に友達から狙うのが妥当と思ったのよ。」

歌唄

「この卑怯者・・・」

正子

「何とでも言いなさい。アタシは父さんのようになるためなら、何だってできるわ。さて、マネージャーさんの電話番号を教えてくださいか？」

歌唄

「イヤよ。アンタなんかに教えるもんですか。」

正子

「良いの？ 親友の顔に傷がついても。」

そう言うと、正子は亜夢に手をかざした。

亜夢

「うっ!!」

歌唄

「ひ、卑怯よ!!」

正子

「言ったでしょ？アタシは何だってできるって。」

歌唄

「う・・・わかった、教えるわ・・・」

歌唄は正子に電話番号を教えた。

正子

「さてと、電話もかけ終わったし・・・あなた達は、しばらくしゃべれないようにしておきましょうか・・・」

そう言うと、正子はガムテープを持って歌唄と亜夢に近づいて来た。

亜夢・歌唄

「う・・・」

2人が目をつぶった、その時・・・

「ジャグリング・パーティー!!」

突然飛んできたジャグリングのクラブが、正子の手を弾いた。

ガッ！

正子

「キャッ！？」

「タイトロープダンサー！！」

続いて飛んで来たタイトロープが、正子を捕縛する。

ビュン！

グルグルグル・・・

正子

「キャア！！」

亜夢

「ジャグリング・パーティにタイトロープダンサー・・・この技は・・・」

「亜夢、歌唄！無事！？」

2つの技を放った者・・・

ガーディアンのクイーンズチェアである真城りまが、ランやエルと共に倉庫の中に入って来た。

亜夢

「りま！来てくれたのね！」

真城^{マシロ}りま

「エルが連れて来てくれたの。」

そう言うのと、りまは亜夢と歌唄に駆け寄る。

りま

「大丈夫？ 今ほどいてあげるから。」

りまは亜夢と歌唄の背後に回ると、2人を拘束から解放した。

バサッ！

歌唄

「助かったわ、真城さん。」

りま

「お礼は後よ。とにかく今はあの子を何とかしないと・・・」

正子

「邪魔はさせない・・・アタシは必ず、父のような怪盗になるのよ
！！」

正子の真上で巨大化した？タマが、彼女を飲み込む。

バクン！

ポン！

正子

「キャラなり！ ギルティードリーム！！」

正子は？キャラなりした。

歌唄

「キャラなりしたわね・・・亜夢！アタシ達もキャラなりよ！！」

亜夢

「うん！」

すると突然、ハンプティ・ロックが光りだした。

カッ！！

正子

「な、何なのこの光は・・・」

りま

「私の心・・・」

亜夢・歌唄

「アタシの心・・・」

亜夢・歌唄・りま

「アンロック！！」

亜夢達3人はキャラなりした。

しかし、本来とは全く別の姿に。

りま

「キャラなり・・・クラウンエンジェル!!」

歌唄

「キャラなり・・・ハートフルチャーム!!」

亜夢

「キャラなり・・・アミューレットドロップ!! って・・・どうなってるのこれ!?!」

歌唄

「アタシ達・・・」

りま

「別のしゅごキャラとキャラなりしてる!?!」

そう、亜夢達はハンプティ・ロックの力により、別のしゅごキャラとキャラなりしたのだ。

りまはエルと、歌唄はランと、そして亜夢はクスクスとである。

りま

「ハンプティ・ロックにこんな力があつたなんて・・・」

歌唄

「でもこの姿はきっと長くは保たない・・・」

亜夢

「手早く決めるよ、歌唄! りま!」

歌唄・りま

「ええ!!」

亜夢達は正子に突っ込んで行った。

正子も応戦するが、やはり3VS1では分が悪い。

あっという間に、正子は追い詰められた。

正子

「やっぱり、無理なのかしら・・・女のアタシには、父のような立派な怪盗にはなれないのかしら・・・」

正子が巨大な×タマに包まれる。

歌唄

「諦めちゃダメ!」

亜夢

「諦めずに頑張れば、夢はきっと叶うよ!」

りま

「亜夢、歌唄!ここは3人で浄化しましょ!」

亜夢・歌唄

「ええ!」

亜夢

「ネガティブハートに、ロックオン!!」

亜夢・歌唄・りま

「トライアングル・ハート!!!!」

亜夢・歌唄・りまのかざした手から、ビームが放たれる。

パアアアア・・・

巨大×タマは浄化され、正子は元に戻った。

亜夢

「これにて、一件落着ね!」

亜夢達3人は手を叩き合う。

そんな3人を、ルルが悔しそうに見つめていた・・・

続く!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8485j/>

しゅごキャラ！3人娘のトライアングルハート！！

2011年10月3日04時30分発行